

ID 1008394

日々の努力で  
さらに美しい音色を



1 3 西前さん 2 4 増淵さん 5 左から、増淵さん、西前さん、高橋さん

西前 詩音さん (旭中学校 1年)  
増淵 里夢さん (宇都宮白楊高等学校 2年)

プロフィール

「ミュージックスタジオ Takahashi」で、小さい頃からマリンバを習う2人。  
昨年開催の第8回日本学校合奏コンクール 2019 全国大会 ソロ&アンサンブルコンテストに出場。

マリimbaは木琴の一種で、たくさん木の音板がピアノの鍵盤のように並ぶ楽器です。板が金属の鉄琴なども木琴の仲間といえますが、その中でもマリimbaは、4オクターブ以上という最も広い音域で、深みのある音を奏でることができます。

最高賞受賞という結果に、西前さんは「この大会に出場するのは3回目。これまで金賞は取れなかったのですが、金賞が取れればいいと思っていた」、増淵さんは「この大会に出場するのは初めて。失敗してしまった箇所があり、賞は取れないか

昨年11月、福島県で開かれた第8回日本学校合奏コンクール2019 全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト。小学生・中学生・高校生別にソロとアンサンブルの2部門があり、CD審査の予選通過者が本大会でマリimbaやホルン、フルートなどを披露しました。この大会で、同じ音楽教室に通う西前詩音さんがソロ・小学生の部、増淵里夢さんがソロ・高校の部でそれぞれマリimbaを演奏し、金賞を受賞。さらに、2人は、金賞を受賞した人の中から各部門1人ずつ選ばれる、最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。

また、マリimbaの魅力は「きれいな音色で、聞いていても演奏していても楽しい」「叩き方で音色が変わる。どう表現するかは自分次第」と話す2人は目を輝かせます。

現在、2人は次のコンクールを見据え、西前さんは「自分らしい演奏ができるようになりたい」、増淵さんは「さらに自分のレベルを上げていきたい」とさらなる高みを目指しています。

日々努力し、さらにレベルアップしていく2人。今日もマリimbaの美しい音色が響きわたります。

かもしれないと思った」と、驚きながらも、喜びをかみ締めます。

2人が通う音楽教室の講師・高橋美智さんは「2人とも真面目に取り組んでいて、きちんと練習をしてくる。前回のレッスンと同じことを繰り返す必要がないので、どんどんレベルアップできる」と2人の強みを語ります。

西前さんがマリimbaを始めたのは、保育園でレッスンがあり、いところが演奏しているのを聞いて面白そうだと思ったから。増淵さんは、小学4年生の時、母にマリimbaという楽器があると教えてもらい、体験に行ったことがきっかけです。